

科学基礎論関連教育：教養科目

提題者：出口弘¹、伊勢田哲治²、塩野直之³
オーガナイザ 村上祐子⁴

¹東京工業大学、²京都大学、³東邦大学、⁴東北大学

一般教養科目としての科学基礎論関連科目は自然科学概論・科学原論・科学と社会などのさまざまな授業名称で提供されているようだが、需要と供給のマッチングの現状は判然とせず、カバーしている領域の実態も分からない。また、授業対象としても、自然科学系一般科目として人文社会系の大学生に、また（広義の）教養科目として自然科学系の大学生に大きく分けられるが、共通した事前知識が「科学とは何か、あいまいなイメージしかない」であるという以外に、何を教授することが求められているのか、不明である。さらに、学術の将来を鑑みれば決して望ましくはない状況である現在および近未来の大学の環境では、科学基礎論は非常勤講師担当科目として扱われ（すなわちこの分野を専門とする常勤担当者は減少し）、蓋然的であるシナリオは（1）他の分野の専門家が非常勤講師として科目を担当する、（2）科学哲学専門家が専業非常勤講師となる、（3）他機関常勤の専門家が非常勤で担当する、の3つと推定されるが、これも現状把握が必要である。ここで（2）は科学基礎論専門家の育成（これ自体も問題であるが、今回のWSのスコープとはしない）が成功したとしてもキャリアパスとして成立しないシナリオとなるため、長期的には持続的ではない。また、（3）は数少ない専門家の負担が増大する。一方（1）とすれば teacher-proof 教材の開発が必要となるだろう。

この状況を踏まえ、科学基礎論学会では将来の教材・カリキュラム開発を目指して、今回のワークショップで現状調査および予備的な意見集約を行う。まず提題者には「A: 科学基礎論関連科目とは何か、すなわち何を教えなければならないのか」「B:Aを実際に教えるうえでの問題点（対象別）」「C:期待される教育効果」「D:科学哲学関連科目の担い手」の4点を中心に、それぞれの経験に基づいて論じていただく。そののちに、フロアを交えて議論を行う。

同時に以下のアンケート調査を行う。ご協力をお願いしたい。

- （1）回答者全員対象（希望調査）：対象別教授内容、教材（内容・形態）。
- （2）科目担当者対象（現状調査）：機関名、年度、科目名、契約形態（常勤、任期付、非常勤）。